

休戰約定

2-0090

0207

51

2/31

明治三十三年三月十日  
東京府知事 斎藤實

七  
主事

平賀

カ人

元二〇八号  
大、起、出、内、各、中、令、也

電報又

休、對、我、取、り、不、約、登、心、が、切、

外務省

物、方、目、之、リ、持、渡、シ、又、ハ、促、ス、カ、如、

キ、持、呈、シ、一、切、之、リ、返、テ、若、モ、先、方、日、

リ、持、渡、セ、バ、感、和、決、判、ノ、返、答、ヲ、助、

クル、~~一、般、ニ、カ、シ、ク、~~日、決、判、事、

欠、合、合、上、ノ、事、件、ヲ、定、メ、

平、日、之、モ、~~モ、~~夫、上、ノ、簡、ハ、決、

2-0090

0208

841425

本、計画、進、口、手、車、切、筋、ヲ  
健、續、ス、ル、者、有

外  
務  
省

2-0090

0209

Copy

841436

Sent, 6-19-'05. 7-30. p.m. NO. 2134.

Takahira,

Washington.

209. Transmit Gekeshi my telegram 208 as confidential information.

Kemura.

付  
箋

2-0090

02:0

52

841427

字

書行海文(之のこころ)

三平二四六

まま ことまらば

少針がねさる

片一五九

古後使の書は我ら希し法に所より申すも  
常あふを権ある言ふこと付海と流る  
へのちりトこ一りおまゝあはれんはとて古後使

外務省

い我ら申すりふらうつて「申す事」文とて  
海うかこころをり給ふ

は我

2-0090

02::

方

會行方之二十五年傳文

二十五年二月廿五日

主事 之二十五日傳文

少輔方之廿五日

方之二十五年及方之二十五年

之使領ハ傳文トシテ曰ク

會行方之傳文トシテ曰ク 會行方之傳文トシテ曰ク

之正式手續書曰ク 之正式手續書曰ク

外務省

之會行方之傳文トシテ曰ク

會行方之傳文トシテ曰ク 會行方之傳文トシテ曰ク

之正式手續書曰ク 之正式手續書曰ク

トシテ曰ク 之正式手續書曰ク

會行方之傳文トシテ曰ク 會行方之傳文トシテ曰ク

之正式手續書曰ク 之正式手續書曰ク

會行方之傳文トシテ曰ク 會行方之傳文トシテ曰ク

トシテ曰ク 之正式手續書曰ク

傳文

841439

大臣  
次官  
政務  
通商  
人事  
會計  
取調

*Handwritten signature*

No. 3149  
50 wds.

Washington, June 25 1905

Received, " 26 " 5-45 p.m.

Komura,

Tokyo.

*Handwritten mark*

No. 166. In reference to your telegram 216, it is most advisable to send expedition as soon as possible because there is every reason to expect that the question of armistice may be formally brought up when the appointment of Russian Plenipotentiaries has been announced. When it is brought up, consideration of the question may be delayed in some way as reported already, but I fear public sentiment will be aroused against us if expedition is sent after its formal proposition.

Takahira.



2-0090

02:13

休致

方

電送年二二九号

二十四日付

外務大臣

54

841430

奉答

申三〇日

休致を冠して、この旨を、法外に裁断せらるるに就ては、  
ト雖、此の旨を、法外に裁断せらるるに就ては、休致の旨を、  
ナレト包み居るに、申すに、此の旨を、法外に裁断せらるる  
旨に、上り申すに、申すに、此の旨を、法外に裁断せらるる

外務省

ク奉答に、この旨を、法外に裁断せらるるに就ては、  
休致を冠して、この旨を、法外に裁断せらるるに就ては、  
ト雖、此の旨を、法外に裁断せらるるに就ては、休致の旨を、  
ナレト包み居るに、申すに、此の旨を、法外に裁断せらるる  
旨に、上り申すに、申すに、此の旨を、法外に裁断せらるる

2-0090

02:14



841431

与々作務に及ぬと院下を乞ふ事ハ云々  
与々作務に及ぬと院下を乞ふ事ハ云々

外務省

2-0090

02:15

休戦

宣統三年三月廿七日

三月廿七日

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

休戦の事と云ふは、宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

外務省

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

宣統三年三月廿七日

言

宣統二年五月廿七日

五月廿七日

宣統二年五月廿七日

五月廿七日

五月廿七日

五月廿七日

五月廿七日

五月廿七日

外務省

休致

2-0090

02:00

は裁

首

全書三三七七号

三十七号

全書三三七七号

少村

月一ハ一

余ハ又此書ハ其書ニ使テ種々トシテ其ノ旨ヲ示シテ  
之ヲ示ス

余ハ又此書ハ其書ニ使テ種々トシテ其ノ旨ヲ示シテ

外務省

ハ此書ハ其書ニ使テ種々トシテ其ノ旨ヲ示シテ  
大段ハ其書ニ使テ種々トシテ其ノ旨ヲ示シテ  
トシテ其ノ旨ヲ示シテ

余ハ又此書ハ其書ニ使テ種々トシテ其ノ旨ヲ示シテ

是より休載と書候え不得ト云々  
 況もト云々(五段始)ノ事云々  
 中取付と云々  
 又云々  
 本心政府ノ批所  
 況生云々  
 又云々  
 本心政府ノ批所  
 況生云々  
 又云々

外務省

又一切ノ情状ノ取  
 一々コトヲ行し  
 推測ス  
 ルハ  
 又云々  
 中ハ  
 我ノ  
 未ハ  
 ルト  
 且ス

841436

廿九日録ニ在リ

外務省

2-0090

0220

寄

休載

香文三三三〇一三三三

三三三三三三三三

三三三三三三三三

三三三三三三

三三三三三三

休載ノ法...

三三三三三三...

三三三三三三...

外務省

三三三三三三...

三三三三三三...

三三三三三三...

三三三三三三...

三三三三三三...

三三三三三三...

三三三三三三

841438

proposal on certain conditions such as Russia's withdrawal from Harbin and Japan's occupation of Saghalien, etc.

Takahira.

大臣 次官  
政務 通商 人事 會計 取調

次官 大臣

No. 3310  
104 wds.

Washington, July 4 1905

Received, " 5 " 2-10 p.m.

Katsura,

Tokyo.

No. 187. (Calendar.)

外  
譯

In regard to armistice, Japan occupies undoubtedly much more advantageous position than Russia and she cannot be reasonably expected to agree to armistice without certain conditions guaranteeing her position. Still it will not be entirely reasonable for her to refuse Russian proposition at present stage without some ground, and therefore it seems advisable to answer to the President, in respect to his last communication, that in deference to his intermediation, Japanese Government would be willing to cease hostilities, if Russian Government should enter into provisional understanding with Japan, whereby Russia will recognize general principles of Japan's demand, including payment of an indemnity and cession of Saghalien. Should this however be found unacceptable for Imperial Government, it might be well to accede to

Stamp

2-0090

0222



德伊

電信譯文

華盛頓發廿八年七月四日

極秘

桂外務大臣

在米 高平全權公使

第一八七號

850001

休戦ニ關シ日本ハ露國ニ比スレバ適ニ有利ノ位  
地ヲ占ムルヤ疑ナレ故ニ其位地ヲ保障スル條  
件ノ設定ヲ見サレハ休戦ニ同意セザルヘキハ當然  
ノ事ナリ然レトモ今日ノ立場ニ於テ何等ノ理  
由ナク露國ノ提議ヲ拒絶スルハ全然適宜ノ事  
ニモ非ス故ニ大統領最近交渉ニ答フルニハ帝國  
政府ハ大統領ノ居中ヲ諒トシ若シ露國政府ニ

シテ假ニ帝國ト協商シ我要求ノ要梗(賠償支拂  
及樺太島讓與ヲ含ム)ヲ承認セハ喜テ戰鬥行為  
ヲ中止スヘキ旨ヲ以テスルコト可ナルカ如シ尤モ帝  
國政府ニ於テ此案ヲ可トセラレサルニ於テハ露國  
ノ哈爾濱撤退、日本ノ樺太島占領等ノ條件ニ  
テ右ノ提議ニ應諾スルコト宜シカラント思考ス

2-0090

0223



850003

外務省  
文書  
一  
カ  
ク  
サ  
シ  
ト  
ヨ  
キ  
ス

外務省

2-0090

0225

子

書行方之記の三子海文

之千ハレチキナラ

吉原 一子史全統子史

桂ふみちる

はる

一九二二年

吉原のつは我々を遊ばせよと云ふこと久しう  
余は友らもツキテ

此年ノ秋ハ死ニ至リシニ方此は又書行方ノ字

外務省

ノ子ハ吉原ノ家ニ住ルベシト信テ、  
ハ對シテハ吉原ノ制裁ト云ヒテ人々ハ  
ツキテトシテ、  
シテ、  
ニ生カセシメ、  
ノ見テ、  
トト

字

休載

奉命出使の儀に付て

御座候旨に付

奉命出使の儀に付

御座候旨に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

外務省

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

奉命出使の儀に付

字

重文の二六二

子字の七

少村の推

桂の

カセ

夫しは我の歌のゆるい

まは我のゆるい

の字のゆるい

の字のゆるい

外務省

の字のゆるい

2-0090

0228

55

手紙之六之三

三月廿七日

カ打合権あり

権あり

第一二

大及領は海とウイツシカを名を事、古使と語リ又  
ルコトと説及とシテテ有る事、理ヲ法一轉して曰ク余ハ物  
メ体裁記ヲ左記シ居ルニ、ウイツシカノ事ノ一ニシテ

外務省

一、更ニテ、海に法判才、文一、物ノヤカ、ルモ、  
ナラシカ、如シ、余ハ、ウイツシカ、對シテ、氏ノ、政、所、を、  
法、指、リ、又、キ、テ、之、向、リ、変、シ、テ、前、子、ノ、事、に、向、リ、  
裁、シ、制、生、ス、ト、モ、ナ、キ、事、ナ、リ、漢、セ、ト、ス

体裁

850008

大臣

次官

政務 通商 人事 會計 取調

No. 4/14

64

九一九號

村外務大臣

村外務委員

ニテカスル 泰 廿六年八月廿九日  
吉野 喜吉 喜六 喜三

本日ノ會議ニ於テ大體ノ條件確定シタ  
ル後「ウイウテ」ハ此際急ニ協定シタキ  
アリ即チ戦闘休止ノ一ニシテ既ニ海和  
条約ノ基礎確立シタル上ニ速ニ戦闘  
ヲ休止セン「至」爲ニシテ世用ニ戰爭ノ  
慘害ヲ蒙ル「互」ニ可ナリト思考  
スル旨ヲ述ヘタルニ付「中」負「至」極口成

村外務大臣

ナリ然レハ何等モ素アリテ極口成ニシテ我  
方ニテハ夫「至」付「考」量「加」ヘント爲ル「も」レ  
「ウ」イ「ウ」テ「未」ダ「本」案「ナ」キ「も」成「二」兩「部」長  
階「下」ナリ「軍」隊「月」會「合」有「リ」對「シ」テ「戦」闘「ヲ」  
休「止」ス「ヘ」ク「テ」方「法」ニ「付」テ「双」方「日」ニ「協」議  
決「定」ス「ヘ」キ「旨」ヲ「存」在「セ」ス「一」ト「モ」ハ「必」ず  
又「軍」隊「ノ」増「進」ニ「因」付「テ」停「止」ス「ル」ノ「可」  
ト「ス」ハ「シ」ト「云」ヘ「リ」存「在」テ「中」員「右」ニ「對」シ「テ」ハ  
負「荷」何「ノ」否「ニ」答「フ」爲「ス」能「ハ」サ「レ」付「法」  
則「上」返「答」ス「ヘ」キ「旨」ヲ「述」ヘ「ル」ニ「ウ」イ「ウ」テ

2-0090

0230



モ同ミテ政府ニ東議ニ制令ヲ行フヘシト  
云ヘリ

此ニテ帝ニ政府ニ控テ、右ノウイツテ、意見  
通リニテ可ナリト思考トス、ヤ又至正式  
条約締結ノ必要トセラル、ヤ亦知後  
シツクシテ正式、条約ノ必要トモ  
体體有協議、案、控ラシモ尚モ後  
ノ裁決ヲモ考量ミ加ル必要アルベ  
大伴キ、此ノ如ク然ルヘシト思考ス即チ  
一休裁、好限、海軍部約批准、日下

三 滿洲方面及支那方面ニ於テハ日清  
海軍ノ自ラ一定、距離ヲ直ラコト右

距離、双方ノ利益、於テ協定スルコ  
ト

三 西至海軍、何モ他ノ領土ヲ有シ、占領

四 海軍ノ自ラ一定、距離ヲ直ラコト右  
止セサルコト

五 西至何レモ軍隊ヲ増セサルコト

850010

右の國に於て是の如く  
天以北の宿軍の  
往マサレコト  
橋邊中へ属スルモノハ日本軍の奉  
送スル宿軍の送來宿軍の  
送來宿軍の送來宿軍の

2-0090

0232

小村全權委員電信第一一九号  
 休戦及軍隊増遣ニ関スル件ニ  
 電信記載ノ條項ニ依リ正式約  
 定ニシテノ様ニ取計相成候  
 以テ進出也

明治二十八年八月廿一日

大本營

参謀総長侯爵山縣有朋

陸軍大臣寺内正毅殿



66

850012

抄

九月

電送第 二八七 號  
明治 廿八年 十一月 三日

全權委員

村外務大臣

第七号

平雪第二九号、采之帝高政府  
正武、条約、佛、結、事、之、協、定、也  
ニ、次、ス、ル、右、條、約、斗、ア、リ、タ、シ、也  
協、定、條、次、ハ、中、城、通、ニ、ラ、ル、也、ト、ス

外務省

2-0090

0234

850013

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

No. 4157

124換

電信

上海 三十八年九月二十六日 三三〇ハ

桂外務大臣

上海 松岡事務代理

至急 才三六六号

小村来電（九月一日）

才一三二号

体裁條約を締結し、海軍委員は、本條約方より  
提出した條件に同意し、是より今日、副電  
才一三二号、議定書双方調印し、同日、  
初稿を委員に提出し、本議定書より、調  
印後直ちに印カシ生セトスル、希望  
ヲ提出するハ、我方に於て、補和條約調印

松岡上海事務代理

67

後、方々より主張し、結局先方との同意し、才三六  
号の規定より、又才三六号、先方、希望するに、我  
方、存シ、異議ナキ、付、同意ナリ  
本電報及別電才一三二号、到着、日時、電  
報、リ、備、フ

2-0090

0235

電送第二八二號 850014  
明治廿八年九月三日

小村合柱書

柱大臣

号ハコ

号ハコ一ニ号ハコハ年九月八日分奉名ノ届

外務省

2-0090

0236

次 大  
官 臣  
政 務  
通 商  
人 事  
會 計  
取 調

Y



No. 4167

188 wds.

Yinkow, Sept. 3 1905 2- p.m.

Reed., " 4 " 7-45 p.m.

Katsura,

Tokyo.

Urgent Matsuoaka raiden No. 365.

Katsura raiden No. 123.

The Undersigned Plenipotentiaries of Japan and Russia duly authorized to that effect by their Governments have agreed upon the following terms of armistice between the belligerents, pending the coming into force of the treaty of peace:-

1. A certain distance (zone of demarcation) shall be *fixed* between the fronts of the armies of the two Powers in Manchuria as well as in the region of the Tomamko.
2. The naval forces of one of the belligerents shall not bombard territory belonging to or occupied by the other.
3. Maritime captures will not be suspended by the armistice.
4. During the terms of the armistice reinforce-

-2-

850015

ments shall not be dispatched to the theatre of war. Those which are en-route shall not be dispatched to the north of Moukden on the part of Japan and south of Harbin on the part of Russia.

5. The Commanders of the armies and fleets of the two Powers shall determine on common accord the conditions of the armistice in conformity with the provisions above enumerated.

6. The two Governments shall give orders to their commanders immediately after the signature of the treaty of peace in order to put this protocol in execution.

Portsmouth, September 1st 1905.

Signed. Jutaro Komura  
K. Takahira  
Serge Witte  
Rosen.

Segawa.

2-0090

0230

奏 手續濟  
首相海相陸相  
元老 配布濟

電信譯文

東京着冊八年九月四日  
（管口經過ノ為ニ遲滞）

極秘

桂外務大臣

小村全權委員

第百廿三號

下名ノ日露兩國全權委員ハ各自國政府ヨリ正式ト  
委任ヲ受ケ兩交戰國ノ間ニ講和條約ノ實施ニ至ルマ  
テヲ有効期限トシテ左ノ休戰條款ヲ協定セリ

第一條 滿洲並ニ豆滿江方面ニ於ケル兩國軍隊ノ

間ニ一定ノ距離（區劃地域）ヲ設定スヘシ

第二條 兩交戰國ノ一方ノ海軍ハ他ノ一方ニ屬シ

若ハ其占領スル領土ヲ砲撃スルコトヲ得ス

第三條 海上ノ捕獲ハ休戰ノ為ニ停止セラルコト

ナシ

第四條 休戰期限中増援隊ヲ戰地ニ派遣スルコト

ヲ得ス而シテ其増遣ノ途ニ在ル者ハ日本國ニ在リテ

ハ之ヲ奉天ヨリ北方ニ露西亞國ニ在リテハ之ヲ哈爾

濱ヨリ南方ニ送ルコトヲ得ス

第五條 兩國陸海軍司令官ハ前記ノ規定ニ遵ヒ休

戰ノ條件ヲ双方ノ合意ニ依リ決定スヘシ

第六條 兩國政府ハ本議定書ヲ實施セシムルカ為ニ講

和條約調印後直ニ其司令官ニ命令ヲ發スヘシ

2-0090

0238



850017

千九百五年九月一日  
ボークラスニ於テ

小村 寿太郎

高平 小五郎

セウジ、ウキマチ

ロークセン

2-0090

0239

850018

次 大  
官 臣

取 會 人 通 政  
調 計 事 商 務

No. 2883

Sent. Sept. 3, 1905, 9:20 a.m.

Komura,  
Portsmouth.

no. 81. Kiden no. 123 yokka  
gozen 745 chaku.

Katsura.

2-0090

0240

本條約第五條に對し海軍に在り  
 陸上に於ける他我軍隊對敵上其趣  
 取中相成度し及  
 取中相成度し及  
 取中相成度し及  
 取中相成度し及

海軍大臣 野村浩将  
 山本権次郎

外務大臣 青木桂 右郵殿



一 兩國海軍司令官は本條約第六  
 條に於て後互滿江方面に於ける兩兵

陸軍司令官の及外し會同し日時及  
 場所等必要の事同条約第五條に於て  
 定むる事

850020

電送第 2891 號  
明治 38 年 9 月 5 日 11 時 45 分 發

少村令權妻負 桂坊在  
才八四号

休戰條約第五條ニ  
陸上ヲ控ルニ  
陸軍隊

ニ在リ  
對勢ト其極ヲ異ニ  
左ノ台

ヲ露王妻負  
協定レ置ナシ

兩王海軍司令官  
休戰條約第

六條ノ受  
後至滿江方面ニ

於テ西王陸軍司令官  
友ヲ介シテ

外務省

唐國、日將及場所、定、口條

約才五條、決定ヲ為スコト

2-0090

0242

850021

大臣

No. 4184

上海發 三十八年九月四日午後九時五分  
東京着 五時三十分

桂外務大臣

松岡事務代理

次官

第三七四號(至急)

政務

小村全權委員ヨリ第一三二號

通商

九月一日休戦條約へ調印シ同日直ニ第一二二號及第一

人事

二三號電報ヲ以テ上海總領事館ヲ経閣下ニ報

會計

申シ右電報御受領ノ上ハ其時日御返電ヲ乞ヒ置

取調

ケリ右條約ハ大体我提案通りニテ而シテ平和條

約調印後直ニ效力ヲ生シ兩國政府ヨリ其旨ヲ

令官ニ通達スルコトナリ居レリ然ルニ平和條約

ハ明日午後調印ノ運トナリタルモ末々閣下ヨリ

松岡上海場四表

前頭電報御受領ノ報ニ接セス若シ未達ナレバ至急

上海總領事館へ御問合セ、上相當ノ御処置相成

タシ

2-0090

0243

20

休養に際して別紙日雨踏議定書ハ  
 明日官報ト彙報欄官廳事項  
 部掲載スルハ其ノ既ニ  
 古抄本ニハ別紙ニ  
 毛筆本ニ百箇百箇分書  
 配遣スルハ其ノ既ニ  
 明治十一年九月一日  
 外務省

外務省  
 外務省  
 外務省  
 外務省

官報、皇報、擴、官、初、事、後、  
高、場、裁、一、

○ 休戦、開、心 日露議定書 本月一日日露

兩國全權委員、右記、議定書、

調印シテ、同議定書、本月五日

より実施セラル

下名、日露兩國全權委員、右

本國、對、り、相、當、り、委、任、ヲ、受、テ、

議定條約、實施、セ、ル、マ、デ、有、効、

期限、シ、テ、兩、交、戰、國、間、に、在、リ、休、戦、

條款、ヲ、始、メ、セ、リ、

此一條、滿洲並、豆、滿、江、方、面、に、在、リ、

兩國軍隊間一定距離  
 巨砲地域ヲ定ケル  
 亦二條西交戰國一方海軍  
 他一方陸軍若ク砲地ヲ砲撃  
 タルト得ル  
 亦三條海上ノ捕獲ニ休戦ノ為  
 停止セラレトナシ  
 亦四條休戦期限中糧兵ヲ戰地  
 汎<sup>送</sup>ル<sup>送</sup>得ル其ノ汎<sup>送</sup>ノ送  
 主<sup>送</sup>者日本國ニ在リテ之ヲ奉テ  
 以北ニ在ル西國ニ在リテ之ヲ略  
 希<sup>送</sup>須以<sup>送</sup>希<sup>送</sup>送<sup>送</sup>ル<sup>送</sup>得ル  
 亦五條西國陸海軍司令官ノ  
 命令書<sup>送</sup>前<sup>送</sup>休<sup>送</sup>戦<sup>送</sup>ノ<sup>送</sup>規<sup>送</sup>定<sup>送</sup>ニ<sup>送</sup>遵<sup>送</sup>ヒ  
 双方<sup>送</sup>合<sup>送</sup>意<sup>送</sup>ト  
 休<sup>送</sup>戦<sup>送</sup>ノ<sup>送</sup>條<sup>送</sup>件<sup>送</sup>ヲ<sup>送</sup>決<sup>送</sup>定<sup>送</sup>ス  
 亦六條兩國政府ニ本條之書ヲ



850025

實施  
其ノ司  
千九百零九年九月一日

其ノ司  
千九百零九年九月一日

千九百零九年九月一日

山田

子

セシ

セシ

外務省

2-0090

0247

方長早折原の件

明治三十四年九月七日  
報送第九七三號

官報公告在

休戦ニ関スル日露議定書

850026  
本月一日日露兩國全權委員ハ左記ノ議定書ニ調印シテリ  
同議定書ハ本月五日ヨリ實施セラル

九月  
七日  
官報掲載  
号外

- 下名ノ日露兩國全權委員ハ各本國政府ヨリ相当ノ委任ヲ受テ議和條約ノ實施ニ至リ迄ヲ有効期限トシテ兩交戦國間ニ左ノ休戦條款ヲ協定セリ
- 第一條 滿洲並ニ豆滿江方面ニ於テハ兩國軍隊ノ間ニ一定ノ距離(區劃地域)ヲ定ム
- 第二條 兩交戦國ノ一方ノ海軍ハ他一方ノ領土若ハ占領地ヲ砲撃スルコトヲ得ス

官報部送付済

- 第三條 海上ノ捕獲ハ休戦ノ為ニ停止セラルコトナシ
  - 第四條 休戦期限内増援兵ヲ戦地ニ派スルコトヲ得ス  
其ノ派遣ノ途ニ在リ者ハ日本國ニ在リテハ之ヲ奉天以北ニ露西亞國ニ在リテハ之ヲ哈爾濱以南ニ送ルコトヲ得ス
  - 第五條 兩國陸海軍司令官ハ前數條ノ規定ニ遵ヒ双方合意ノ上休戦ノ條件ヲ決定ス
  - 第六條 兩國政府ハ本議定書ヲ實施セムカ為ニ議和條約調印後直ニ其ノ司令官ニ命令ヲ發ス
- 千九百零五年九月一日  
ポーツマウスニ於テ

850027

小村 寿太郎  
高平 小五郎  
セシジ、ウチワテ  
ローゼン

2-0090

0249

電送第 2918 號

年 18 號

850028

明治 38 年 9 月 7 日 時 分 發

休戰條約。九月七日東京。於此。此表セリ  
 光吉。カ一二二号。及一二三号。以旨ヲ添ヘテ  
 五公使。及。南北。東。東。米。利。和。公。使。休。休。也。呈  
 亞。哥。伯。亦。勿。公。使。持。電。呈。

外 務 省

小村 全權

桂 亦 務 省

伊 高 欽 司 總 務 長

桂 亦 務 省

此 電 呈 外 務 省 謹 啓

2-0090

0250

電送第 2919 號 平  
明治 38 年 9 月 7 日 7 時 27 分 發

850029

左葉

林公使

桂公使

第 二七三 号

九月一日ヨリ今午控書アリノ調ナラシメ

休戦条約(十村委員ヨリ控電ノ共) 九月七日 東京ニ於テ之ヲ發表

ヨリ右取別各公使及領事ニ控電セラル

トシテ又公使以外ノ公使及領事ニハ休戦條約

外務省

ノ全文ヲ控電セラル

2-0090

025:

850030

電送第 272 / 2929 號 平  
明治 38 年 9 月 7 日 8 時 58 分 發

終

出

内田

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

林

2-0090

0252

850031

自2921  
至2923  
平 88 語

三六年九月七日午後一時三十分  
村外務大臣

3

才三三三号

在清内田後

在清國  
各領事、轉電

才二一三号

在韓林後

在韓國  
各領事、轉電

才二〇号

在暹

秘垣後

在暹、新嘉坡  
領事、轉電

九月一日日露両令持、向ニ停休セシムル休戦  
條約九月七日東京ニ於テ發表セリ條文ノ甲申次

在ノ如シ

才二條 滿洲並ニ豆満江方面ニ於ケル西國軍

隊ノ向ニ一定ノ距離一已劃地域ヲ定ムルシ

才三條 兩交戦國ノ一方ノ海軍ハ他ノ一方

ノ領土着ハ占領地ヲ砲撃スルコトヲ為ス

才四條 海上ノ捕獲ハ休戦ノ為ニ停止セラハコト

ナシ

才五條 休戦期間中増援兵ヲ戦地ニ派遣スルコト

ヲ不許派米ノ条ニ在リ者ハ甲申國ニ在リテハ之ヲ

對天以北ニ露西無國ニ在リテハ之ヲ哈爾濱以南

ニ送ルコトヲ為ス

才六條 兩國陸海軍司令官ハ各數條ノ規定ニ遵

ヒ雙方同意ノ上休戦ノ條件ヲ決スルカシ

2-0090

0253

850032

明治 西國政府ハ中議ニ基テ實地セカ  
為メ滿和條約ヲ訂ス 其日合カニ奉  
合ノ案ヲ一シ

2-0090

0254



70

電送第二九八六號SSR  
明治38年9月12日午後4時10分發

850033

江音

山打金権

券一〇三号

馬別軍總司令官ニ休戦條約ニ基キ  
休戦條件及細目ヲ協定セムルメヲ福

島少将ヲ委員トシ八日奉天ヲ出發

セシメ九日甲州將ト決リ見 甲中中隊ハ

外務省

事件ニ係ル我總司令官ノ書簡ヲ携乃ハ

昌田ヲ委員トシ

前哨隊ノ前哨隊ニテ之ヲ前哨司令官

ニ交附アリ十一日西次河子ニ於テ我先

遣隊者敵ノ軍使アリ リネウイツケ 署名

ノ書簡ヲ受リ可リカ、要點ニ在リ

一、休戦條件并細目ヲ協定スハナク

二、休戦條件ニ係リ協定スルハ参考次第

2-0090

0255

オラノスキール少将。休戦協定書、洞却ス平  
令控リ委任<sup>レ</sup>十三日以河子、外島本

界、隊定たり  
~~日本駐劄軍司令官代表者~~  
手調<sup>レ</sup>ハ~~ハ~~有~~ル~~者~~ハ~~本~~軍~~司令官~~ノ~~部~~ニ~~在~~ル~~ベ~~シ~~ク

~~印地安南中東軍司令官~~ 韓未駐劄日

~~本軍司令官代表者~~ 別~~ニ~~書~~ス~~ル~~ベ~~シ~~ク~~

三  
○山軍休戦条件協定多西島駐劄

司令官、常合ス(キ)此点「シエスヨク」海、即々

新浦港ト定メント

北緯南緯の休戦細目と協定書

○又韓子駐劄軍司令官、後備第二師

團長、余令ラ<sup>レ</sup>候<sup>シ</sup>、曰師團長、参謀長

大庭中佐ヲ委員トシ、右委員、選定、

~~并、各軍各員、~~  
○~~第九~~日時、地点及用語、~~等~~、~~採~~ル~~ベ~~シ~~ク~~我~~軍~~

隊<sup>ヲ</sup>、~~各~~軍<sup>ニ</sup>、~~送~~先<sup>セ</sup>ル<sup>ベ</sup>シ<sup>ク</sup>、八日、軍使<sup>リ</sup>、~~各~~軍

、~~出~~遣<sup>シ</sup>、九日、~~ア~~ミ<sup>レ</sup>モ<sup>ト</sup>、~~少~~将<sup>ノ</sup>、~~各~~軍<sup>ニ</sup>、~~送~~先<sup>セ</sup>ル<sup>ベ</sup>シ<sup>ク</sup>、~~同~~日

先不<sup>レ</sup>任<sup>レ</sup>ハ 伊<sup>ハ</sup>將<sup>ハ</sup> 講<sup>ル</sup>事<sup>ニ</sup> 本<sup>レ</sup>件<sup>ニ</sup> 昇<sup>レ</sup>  
 事<sup>ハ</sup> 何<sup>レ</sup>等<sup>ノ</sup> 訓<sup>示</sup> 接<sup>ス</sup>ル<sup>カ</sup> 故<sup>ニ</sup> 上<sup>級</sup> 司<sup>令</sup> 官<sup>ハ</sup>  
 何<sup>レ</sup> 上<sup>回</sup> 多<sup>ク</sup> シ<sup>ト</sup> 行<sup>ハ</sup>リ 又<sup>ハ</sup> 九<sup>日</sup> 送<sup>附</sup> セ<sup>レ</sup> 海  
 上<sup>休</sup> 致<sup>ス</sup> 昇<sup>ル</sup> 事<sup>ハ</sup> 我<sup>レ</sup> 通<sup>知</sup> 先<sup>ニ</sup> 知<sup>レ</sup> 事<sup>ハ</sup> 行<sup>ハ</sup>リ  
 之<sup>レ</sup> 一<sup>ツ</sup> 方<sup>ハ</sup> 將<sup>ハ</sup> 十<sup>日</sup> 然<sup>レ</sup> 通<sup>知</sup> 事<sup>ハ</sup> 本<sup>レ</sup> 件<sup>ハ</sup> 之<sup>レ</sup>  
 宿<sup>名</sup> 江<sup>守</sup> 軍<sup>使</sup> 司<sup>令</sup> 官<sup>ハ</sup> 進<sup>達</sup> 事<sup>ハ</sup> 告  
 并<sup>シ</sup> 只<sup>ハ</sup> 回<sup>答</sup> 接<sup>ス</sup> 上<sup>級</sup> 我<sup>レ</sup> 軍<sup>ハ</sup> 通<sup>知</sup>  
 之<sup>レ</sup> 事<sup>ハ</sup> 行<sup>ハ</sup>リ

外 務 省

同

2-0090

0250



白

外務省

電号外四二九一号

経前表 三八、九、十、百、五、三、  
高条有

桂外務大臣

小村 参員

外二五三三

徳電外二四三三、因レ布友ハ十月十日夜中至極参員  
ヨリテノ回答ニ接キ

甲四三、一切海軍ニ関スル事件ノ南滿洲ハ之レヲ海軍少  
佐ニエツセシムル事ニ依リテ海軍少佐トシテ友ノリニウイツクハ兩院  
隊司令及司令部ノ地ニ及リ得ル因レた山元帥ト協シテ  
インロスタフニ送ハ存ル会合ニ適當トシテ一地点トシテ之ヲ  
提議ス

2-0090

0258

九月十四日大本營着電

滿洲軍總司令官ハ滿洲方面ニ於ケル日露兩軍ノ  
休戦ニ關シ本日大要尤ノ命令ヲ下セリ

命令

一 日露兩軍ノ休戦條件協定委員ハ昨十三日午  
前十時ヨリ沙河子(昌圖停車場北方約二里)ニ  
於テ會見シ今日午後七時二十分調印ヲ了セ  
リ此協定セラレタル休戦條件議定書ハ左ノ  
五ヶ條ヨリ成ル  
第一條 滿洲全部ニ於テ戦闘ヲ中止ス  
第二條 本議定書ト共ニ交換スル圍面ニ示  
ス日露兩軍第一線ノ中間ヲ以テ離障地帯

トス  
第三條 兩軍ニ一切ノ關係ヲ有スルモノハ  
如何ナル口實ヲ以テスルニ拘ラズ離障地帯  
ニ入ルヲ許サス  
第四條 双磨子ヨリ沙河子ニ至ル道路ヲ以  
テ兩軍ノ共用道路トス  
第五條 本議定書ハ明治三十八年(千九百  
五年)九月十六日露曆九月三日正午時ヨリ効  
力ヲ生ス  
右軍ハ遲クモ來十六日ノ正午迄ニ此議定書  
ニ従ヒ休戦條件ヲ實施スヘシ

850037

大臣  
次官

政務  
通商  
人事  
會計  
取調

No. 299  
暗 205

東京 慶應義塾 九月 會 辰 五 四 分

3

在 紐 育

山 村 全 權 委 員

桂 外 務 大 臣

第 一 〇 五 號

九月十四日各軍司令官遼東兵站監非ニ旅順及大連要  
塞司令官ハ尤ノ命令ヲ下セリ

一日露兩軍ノ休戰条件悞定委員ハ昨十三日午前十

時ヨリ沙河子ニ於テ會見シ同日午後七時非分調停ヲ

了セリ此悞定セシムル休戰条件議定書ハ尤ノ五ヶ

條ヲ成ル

第一條 瀋陽全部ニ於テ戰鬥ヲ中止ス

第二條 本議定書ト共ニ交橋スル四面ニ日露雙方

第一線ノ中間ヲ以テ離隔ノ帯トス

第三條 兩軍ニ一切ノ關係ヲ有スルモノハ如何ナル口實

以テスルニ拘ラズ離隔地帯ニ入ルヲ許ス

第四條 双廟子ヨリ沙河子ニ至ル道路ヲ以テ兩軍ニ

用通路トス

第五條 本議定書ハ一九〇五年九月十六日 露曆九

月廿二日午時ヨリ施行ス

二 各軍ニ違ヒテ未ダ日ノ命令迄ニ此悞定書ニ從ヒ休戰

2-0090

0260

850038

條件ヲ実施スルニ  
三、我第一線ニ凡ソ前進陣地若ク前哨線トス

大臣

三〇〇九

No. 一八二八

立廻有

三十八年九月十七日午前九時

小村全權委員

桂外務大臣

次官

第一〇八號

政務

九月十五日錦小部隊軍夫謀害電報

通商

十四日露軍軍使ニ危ニ告ル書ヲ回シテ前哨

人事

線ニ侵入セリ

會計

露西亞海軍艦司令官ハ日露露小部隊

取調

司令官ノ命令ニ依リテ前哨線

除印

ニテ前哨線九月四日午前九時會議スル

ヨリ送付ス

72

2-0090

026 :

850039

小韓軍陸地休戦ニ對シテ高麗スルキニ  
 少將「ゴカコフスキ」ヲ撰ミニラハテ  
 之全權委員ヲ擧ゲト定ムルニテ  
 右ニ對シ全權委員ハ依然大庭秀保長トシ  
 委員ハ十六日正午沙湍崎ニ出ル  
 日軍使ヲ以テ回答スル事

2-0090

0262



850040

馬車

大臣

電信課長

次官

主管

電受第 九六六號 明治廿九年九月八日 午前五時四分

桂外務大臣 桂川上別務

沖五八号

小官、得る確報、依るに今朝三時半我船  
隊、聖手新高知運艦三隻、海軍艦隊  
ロミ中、ホカケニ、駆逐艦二隻、  
外務省 現に六時半、我船見、多  
沖、澤泊、ト云フ

2-0090

0263

850041

海軍省 陸軍省 外務省 文部省 逓信省 農林省 商工省 司法省 内務省 大蔵省 文部省 逓信省 農林省 商工省 司法省 内務省 大蔵省

電報

九月二十日午後五時五十分 青森電報

島村第二艦隊司令官

林戦区域決定終了と本日より實施スルに決定  
セリ各回元山に駆逐隊の進出に電報セシム

2-0090

0264

電

明治廿八年九月廿一日



電報  
九月二十日午後着電

3

# 電報

東即聯合艦隊司令長官

本月十八日第二艦隊司令官海軍少將島

村速雄、羅津浦港外、於露國艦隊

司令官海軍少將エッセニ會シ海上休戦

地域ヲ劃定シ同日ヨリ之ヲ實施スルコトニ約

定セリ其照約書全文左、如シ

海上休戦地域劃定ニ關スル協約書

各艦隊總指揮官ヨリ代表者トシテ相會

ト委任シ受テ下、署者トシテ島村海軍少

將及エッセニ海軍少將ハ左、如ク協約セリ

交戦國ノ海岸ニ沿ヒ左、如ク海上ヲ區劃ス

即チ界線ハロヂラツフ南ヨリ起リ南東ニ三  
 十海里ヲ走リ北緯四十二度東經百三十一度  
 度ノ地點北緯四十六度東經百四十度、  
 地點北緯四十八度東經百四十一度、地  
 點北緯五十度東經百四十一度二十三分、地  
 點北緯五十一度四十八分東經百四十一度二  
 十三分ノ地點ヲ連接スルモノニシテ之ヨリ北  
 緯五十三度二十七分東經百四十一度二十七分  
 半ノ地點ニ至ル間宮海峽、最狹部ハ中  
 立地帯トシ界線ハ再ヒ北緯五十三度二十七  
 分東經百四十一度二十七分半ノ地點ニ起リ  
 北緯五十六度東經百四十二度ノ地點北  
 緯五十六度東經百四十八度ノ地點ヲ經

右守海峡、中央地點ヲ過キ北緯五十度五  
 十分、距等圈ニ合ス  
 間宮海峡、最狭部ニ中立地帯トス  
 西交戦國、海軍ハ互ニ前記ノ界線ヲ超  
 エルヲ許サス  
 此決議ハ署名、當日ヲ實施シ休戦期  
 間其効力ヲ有スルモトス  
 各代表者、此議定書ニ署名シ之ヲ證ス  
 西曆一九〇五年八月十八日

島村海軍少将  
 エツセン海軍少将  
 (自署)

右協定外ニ於テ堪察加半島ノ住民糧食  
 窮乏シ今後ニ週間ノ後海ニ交通杜  
 絶シ餓死スヘキヲ以テ之ヲ救済スル為メ人  
 道ニ基キ糧食及日用品ヲ搭載スル運  
 送船一隻ヲ浦塩ヨリペトロパゴフスノニ送ル  
 ヲ許サント、エツセン少将、切願ニ對シ島村  
 司令官ハ特日切迫、為メ特ニ通航免狀  
 シ與ハラシ之ヲ承諾セリ

3040 52nd  
38 9 21 6 50  
850044

小村全権

桂大臣

千  
カニハク

島お海軍少将、<sup>聯合</sup>兼<sup>司全権及</sup>代表シエマシ、<sup>後指揮及</sup>代表シエマシ、九月十八日羅津浦

港外、船合シテ海上休戦地域ヲ協定セリ、右協

定以外、於テエマシ、少将、比察加半島、信成程

倉高、主シテ後二週目ノ後、海上交通杜絶

シ、俄死スル者、テ、<sup>船</sup>救済スルカ、夕糧食及日用

品ヲ搭載ス、<sup>船</sup>運送、<sup>船</sup>一隻ヲ浦添、<sup>船</sup>ハ、<sup>船</sup>ハ、<sup>船</sup>ハ、

船ス、<sup>船</sup>送、<sup>船</sup>クル、<sup>船</sup>許、<sup>船</sup>可、<sup>船</sup>キ、<sup>船</sup>シ、<sup>船</sup>ト、<sup>船</sup>切、<sup>船</sup>預、<sup>船</sup>シ、<sup>船</sup>島、<sup>船</sup>お、<sup>船</sup>少、

将、<sup>船</sup>ハ、<sup>船</sup>エ、<sup>船</sup>リ、<sup>船</sup>承、<sup>船</sup>認、<sup>船</sup>ト、<sup>船</sup>特、<sup>船</sup>、<sup>船</sup>通、<sup>船</sup>リ、<sup>船</sup>免、<sup>船</sup>状、<sup>船</sup>ト、<sup>船</sup>シ、<sup>船</sup>リ、

2-0090

0267

850045

次 大臣  
官 政務  
通商 人事 會計 取調

No. 4498.

Berlin, Sept. 29, 1905, 7:55 P. M.

Rec'd, Sept. 30, 1905, 1:5 P. M.

Katsura,  
Tokio.

No. 434.

St. Petersburg Telegraphic Agency reports that, contrary to telegrams from Tokio, the delay in the arrangements for the armistice in the theatre of war in Corea is not to be attributed to the fact that Commander of Russian troops has not received sufficient full powers, but to the fact that Commander could not accept the conditions of Japanese Commander who demanded that Russian troops should retire beyond the river Tumen and that Japanese troops should be allowed to advance on their left wing as far as Kirin in order to establish communication between the Japanese troops in Corea and the Japanese Manchuria army, so that neutral territory would be placed between the river Tumen and north Corea.

I think it would be advisable to contradict the report if it is not true.

Inouye.

馬  
陸軍省  
通商部  
取調  
中  
上  
取  
扱

2-0090

0268

74

850046

電信譯文 柏林發 廿八年九月廿九日

桂 外務大臣 在 独 井上全權公使

第四三四號

露都電報通信社所報：依ハ韓國ニ於テ休戰條約締結ノ遲延スルハ東京來電ノ報スルカ如ク露軍ノ司令官カ充分ナル委任狀ヲ有セサルカ爲ニ非スニテ同司令官ニ於テ日本軍ノ司令官ヨリ申出タル條件ヲ承諾スルコト能ハサルカ爲ナリ而シテ日本司令官ノ要求ハ露國軍隊ハ豆満江以外ニ退去シ日本軍隊ハ其左翼ニ於テ吉林ヲ前進シ同國ノ滿洲軍ト交通スルニ中ニ地域ハ豆満江北韓

トノ間ニ設ケントスト云フニ在リ  
右報道ニシテ無根ナラハ之ニ依取ルコト宜シキト思料ス

2-0090

0269

此種之件ハ露軍ノ負ハ休戦ニ関スルリ子ウキ  
 フテヨリノ命令ヲ我軍ノ通告スルノコトニテ  
 是ニ我軍ノ負ト云振スルノ權カク有セヌカ為メ  
 我軍ノ提出スル條件ハ一々之リ子ウキツケ  
 通シテ其指揮ヲ受ケツケリ又彼ノ提出セ  
 ル境界線ハ現ニ我軍ノ占領セ凡地域ヲ直スル  
 以テ我軍ノ承諾スルヲ能ハルハ在滞トス又露軍  
 ノ通信線ハ毎三四リノ費ニツケテ以テ休戦条  
 約ノ履行ニ向シテ我軍ノ一翼ヲ去林ニ進メ  
 休戦条約ノ利用シテ我軍ノ一翼ヲ去林ニ進メ  
 ニト云フカ如キハ甚モ日露西軍ノ現狀ヲ  
 三ナルモ責任ノ言ノコト

大本營

注意コト

我軍ノ負ハ露軍ノ負ハ休戦ニ関スルリ子ウキ  
 ト提出スルハ其條件ハ一々之リ子ウキツケ  
 面白カクスト思考スルハ其ノ就クハ何  
 ト云フカ如キハ甚モ日露西軍ノ現狀ヲ

杉久お

全書終





850049

以下  
あり  
あり

西條軍ノ通信連絡ハ既に因難ナシ

如何ニ安否トトリテ事ニ付テノ通信ハ事ニ

三四日ヲ以テヤシヨリ休就ス約

~~...~~

~~...~~

又

...

ノ心理...

日本兵西軍ノ

現状上到着アリ得ツル所ハ...

...

...

...

...

...

2-0090

0272



850052

3750 133  
38429 255

Handwritten mark resembling a stylized 'K' or 'H'.

Takahira,  
Washington.

No. 368

At the request of  
Baron Kaneko I telegraph  
you the following message  
from him, for transmission  
to the President, in a manner,  
which you deem appropriate.

別紙敬

Katsumi

Vertical handwritten mark on the left side.

Vertical handwritten mark on the right side.

2-0090

0273

(1)

85005

To President Roosevelt.

In the November number of the *North American Review*, Page 647, Martens states as follows:

"The second intervention of the President was more effective and happy. Japan is now to be asked to withdraw her demand for an indemnity, and the Tsar, who desires sincerely to see the unfortunate war speedily ended, was to consent to the cession of the southern portion of the island of Sakhalin."

I am surprised to read such a statement from the Russian authority on the International Law, who was recently connected with the Peace Commission at Paris. It is, as you well remember, an erroneous and misleading statement of the facts. If this were allowed to circulate in Japan, I fear very much it will bring injury to the feelings of gratitude of the Japanese toward your noble and disinterested

(2)

850051

work to bring about the peace. I ask you to read and consider the statement, ~~because~~ for I can never forget your welfare as well as my country's.

(Baron. Kaneko)

2-0090

0274

大55053

官 臣

No.三一五

第三二七號

桂 外務大臣 在米 高平公使

華府祭 東京着 三十八年十二月十日 后二三〇

政務 通商 人事 會計 取調

76

貴電第三六五號ニ関シ  
 本官ハ明日出發ニ付既ニ大統領ニ告別シタレハ  
 日置代理公使ヲシテ通知セシムル外致方ナシ  
 然ルニ償金問題ニ付テハ大統領ハ初メヨリ賛成  
 ラ表セス小村男初回會見ニ於テモ同氏ハ償金ノ  
 要求ヲ奨励セサリシ次第ニテ右ハ同氏ニ取リテハ  
 一種ノ見識トモ見ルヘキ程ノ事情アリ故ハ近來  
 我國人不信ノ氣焰漸次鎮撫シ且ツ一般市場ノ

不景氣ニ拘ラス紐育ニ於テ我カ最後ノ公債幾  
 倍ノ應募額ニ達シタルニ由リ當國有識者ハ益  
 我カ償金撤回ノ舉ヲ賞讃スル程ナレハ此際事實  
 上大統領ノ勸告セル事項ニ関シ復令「マルレン」ヨ  
 リ新聞ニ記載セルハ不都合ナリトスルモ我カ方ヨ  
 リ大統領ノ注意ヲ求ムルハ面白カラスト思考ス  
 且ツ又現任國務長官ハ近來外交ノ枢機ヲ專握  
 シ外交官ノ大統領ニ近接スルヲ好マサル氣味アリ  
 リ旁々今回ノ事ハ暫ク見合ハセラレテハ如何尤  
 モ是非大統領ノ注意ヲ要ストノ儀ナラハ其旨  
 日置代理公使ニ御電訓アリメシ

2-0090

0275

附

2-0090

0276

ト

遼陽停車場司令官 小村外務大臣

電送第五號 明治三十四年五月十日 午後二時 發

本電信、至急見玉大將、手渡シテリタシ

米國大統領、五月十三日華盛頓、歸着同夜高平公使ヲ接見シ左ノ旨ヲ語リ、(大統領ノ平和勸告、露國、於テ勢力カニ或一派ノ心ヲ動カシ彼等、一時購和説、傾ク、至リタリシガ其後波羅的艦隊、支那近海、現ジタル為ソ意氣大、揚ヒルカ如シ例、新任駐露米國大使カ若任後初メテ露帝、謁見セハヤ帝、言上スル、大

統領、露國ト友好關係ヲ増進セシメトシテ希望シ、從テ若シ露國、シテ大統領、斡旋ヲ利用セシトスルノ意アル、於テ大統領、何時ニテ露國、為ソ、カヲ盡スヲ辭セハル、キ旨ヲ以テ之、對シ帝、默シテ語ラズ帝、側ニ在リタル皇后、帝カ皇后、勸告即チ戰爭繼續意見、及對シテ何事ヲカ察言エハキテ危惧スルカ如キ模様ニシテ帝ノ顔色ヲ注視セシタリト云フ其他諸般報道ニ徴スルニ同下、時機未ダ購和談判開始機運熟セサルヲ見ルヤ、若シ露國、シテ日本、購和

ノ意向アルヲ聞カハ是日本ハ波羅的艦隊東進  
 近海ニ現レタルカ為ノ恐怖ノ念ヲ生セルモノトナシ  
 日本ノ提言ニ對シテ正當ノ考量ヲ加ヘサルヤシ尤モ  
 大統領ノ歸着以來未ノ歐洲大國大使ト會  
 談ノ機ヲ得ガ道ヲ夫々會見ノ上何カノ確乎  
 ナル意見ヲ述ブルコトヲ得ルナリ(高平公使ノ問  
 答)大統領ハ又左ノ旨ヲ述ヘタリ(露國艦隊ノ何  
 時一定ノ成算ナリシテ航<sup>進</sup>せんモノナルバシ尤モ其  
 航<sup>進</sup>カ時局ノ對シテ如何ナル効果ヲ及ハスコトヤ  
 見ントスルノ念或之アリ同艦隊ハ日本艦隊ヨリ

モ多數ノ戰艦及大口徑砲ヲ有ス然レトモ日本  
 ハ兵士ノ軍紀<sup>軍紀</sup>將校ノ技術ニ於テ優<sup>優</sup>卓越セ  
 リ從テ孰シカ勝利ヲ得ルノ見込アリヤト云ハハ  
 日本ハ一ノ對スルニ見込アリ而シテ露國ノ勝利  
 世界ノ進歩ヲ阻害スルモノナリ故ニ日本ハ細心  
 注意シテ必勝ヲ期セサルカラス(大統領ハ又債  
 金及領土割讓問題ノ言及<sup>言及</sup>ハ露國ノ旨ヲ述ヘ  
 タリ)此二点ノ關シテ大統領ハ何<sup>何</sup>等ノ意見ヲ  
 明言<sup>明言</sup>スルコトナシ此二條件ノ精利<sup>精利</sup>詳判  
 并<sup>并</sup>戰事ノ存續期間ノ對シテ如何ナル結果ヲ



大統領亦確カ、想定スル  
 然レハ是大統領カ此二條件ニ及  
 對テリト云フ意ニ非ス蓋シ大統領、日本作  
 戰計劃、關シテ知所ナク若シ日本ミシラ浦  
 潮斯德港占領ノ目的ヲ達セシガ露國或ハ  
 償金ヲ支拂フノ已レヲ得カレ、至ラム又露國艦  
 隊浦潮斯德港、向フ、方リ日本艦隊ノ為メ  
 擊破セラル、至ラハ露國ハ償金ヲ支拂フノ考  
 ヲ起スエト、然レカテ然レモ若シ形勢依  
 然トシテ今日ト異ナルナキ、際シ日本、於テ斯

要求ヲ主張スルトキ、露國、到底之、同意セザル  
 事ヲ斯クシテ戰局ハ尙久キ、互リテ決セザル  
 是ノ以テ韓國旅順滿洲及哈爾濱大連開鏡  
 道ノ問題、關シテハ大統領ハ佛独其他ノ大使  
 對シテ常ニ腹藏ナリ意見ヲ表明スト雖未ク情ニ  
 備金及領土問題、言及セバ、但シ日本、  
 シテ此二点ノ要求ヲ媾和條件中ヨリ除去セバ  
 露國、於テ和局ヲ考量スルヤト云フ、是目下尙  
 大統領ノ断言セザル所ニシテ、當時句ヲ研究  
 セバ、非シハ之、對スル意見ヲ述スルヲ得ズ

心

電送第三号 辨明 明治二十年四月十日 外務省 録

遼陽停車場司令官

小村大臣

奉天電信ヲ至急 見至大將、午後ニリタシ

第二十三号 大統領、高平公使ヲ招キテ、昔ク語

レリ (大統領、今、四仙大使ト會見セルガ事)

此ノ事、佛大使、四日、佛大使、見ニテ

ニテ、露大、戦争ヲ繼續スルヲ待テ、改定ハ

外務省

保、支那、遼陽、遼陽、遼陽、遼陽、遼陽、遼陽

跡、得先、於、道、昨年、八月、海、戦、ハ、日本

艦隊、優、勢、ナリ、ト、稱、ス、露、大、海、軍、ハ、尚、是、ク

孰、ヒ、司令、官、及、ノ、戦、死、見、テ、多、ク、改、定、ハ、北、ニ、向、シ、先、ク

ナリ、此、ノ、中、ハ、改、定、的、行、動、ハ、日本、艦、隊、ハ、

優、勢、ナリ、ト、稱、ス、露、大、海、軍、ハ、尚、是、ク、遼、陽、

ハ、佛、大、使、ト、語、ル、露、大、海、軍、ハ、遼、陽、

佛、田、大、使、海、軍、ハ、遼、陽、ハ、遼、陽、

修、口終保、校別ノ標、實、ノ受、ケ、ス、テ、神、朝  
 斗、運、下、ル、モ、高、ノ、日、本、終、保、シ、テ、依、然、日、本  
 向、ニ、免、限、リ、ハ、終、保、ニ、何、多、ク、カ、ル、シ、得、ベ、キ、ヤ  
 終、保、保、ハ、或、ハ、朝、鮮、海、域、ノ、交、渉、ヲ、遮、斷、セ、シ  
 フ、リ、試、合、マ、シ、或、如、レ、モ、如、ク、カ、ル、シ、當、ニ、日、本、能  
 保、シ、テ、終、保、ハ、水、雷、攻、撃、ヲ、カ、ル、ノ、概、合、當、リ、得  
 セ、レ、ル、モ、ナ、リ、他、ノ、方、ト、シ、テ、平、和、ハ、世、界、ノ、一、設、ノ、利  
 益、ト、ス、ル、ナ、リ、新、テ、ハ、以、上、<sup>昇</sup>、<sup>レ</sup>、終、保、ハ、於、テ、如、レ、ナ  
 向  
 三、三、見、ク、右、カ、ヤ、ヲ、探、ラ、シ、テ、シ、テ、シ、テ、シ、テ、ハ、一、先、ト、佛  
 不、大、使、ハ、之、ト、對、シ、佛、不、如、お、シ、ほ、テ、右、カ、ヤ、ノ  
 向  
 三、三、見、ク、探、ラ、ハ、キ、者、也、( )

外務省

2-0090

850059

大臣

電信課長

次官

主管

電受第 四五 一 號 明治 廿 六年 五月 廿 日 午 時 五 分

小村外務大臣 達陽 兎玉 大将

晴歸 電報 二通 受領ス

外務省



2-0090

0282

電

大臣

電信課長

次官

主管

電受第 四 五 九 號 明治 三 十 八 年 三 月 三 十 日 午 時 五 分

少村外務大臣 奏 貝玉大将

新聞紙に本報の現狀を露と大  
使の羅すに其後任のロゼン男  
ヲナリ果して事實より中否や否  
外務省

（印）

2-0090

0283

850060

四二  
九  
五  
三

奉天

小幡右衛門

兒玉大将

某三号

駐露米露大使カシニ伯ハ西班牙・移勅シ  
ロゼン男ヲ後任ニ命ジラレシコト事ニ及ナリ

外務省

2-0090

0284

850061

左奉天

大臣

兎玉大將

電報 四三 六月五日

中四号

オニ号電報ニ係リ大統領ハ五月二十三日

石上ヨリ高平公使ニ語レリ (兎玉大將) 兎玉大使ハ兎玉外

務大臣ヨリ高平公使ニ語レリ (兎玉大將) 兎玉外務大臣ヨリ高平公使ニ語レリ

外務省

ガ<sup>手カ</sup>結果ヲ大統領ニ通知スルニ至ラズ然レモ大統領

侯カ修造側ヨリウケテ依レリ 兎玉外務大臣ハ兎玉

政府ト云フヨリ閣合ニ於テハ政府ハ知ラ講スルニ意

ナキ者ヨリ回答セリトシテ 大統領ハ兎玉外務大臣ニ

知ラ修造側ト云フニ深ク言フ用ヒテ 兎玉外務大臣ハ

シテ 兎玉外務大臣ハ 兎玉外務大臣ハ 兎玉外務大臣ハ

兎玉外務大臣ハ 兎玉外務大臣ハ 兎玉外務大臣ハ

兎玉外務大臣ハ 兎玉外務大臣ハ 兎玉外務大臣ハ

2-0090

0285

告ト符合ス即チ日大使ノ報告ニ徴スルニ露部  
 之在リハ但露的ニ關係暗利ヲ得ルニ至ルハ戦局  
 露一變シテ送來陸軍職上ニ於テ矢見下リ遂ニ  
 悉ク回復スルニ足ルキヲ豫期シ一般ニ保ク日  
 露保ノ効ヲ預ミ再ニ前途ニ望ム所ニ至ル  
 至リトシテ是ニ近日常我ノ結果形勢一  
 變ニ若クハ大流傾キ於テ平和のヲ得ルハ何等  
 ノ行動ヲ採リ得テシ

外務省



正徳

電送第四六  
六月九日  
高橋、森

壬午天

大佐

此玉大将

林正使  
（電送田原）  
三月廿五日  
三月廿五日  
九月廿五日

第五号

立三州で 高平公任、及ノ者ヲ訓令ヨリ

（日本海一軍ノ大捷ニ密ニカ我ヨリ一変

ヤントレテ 保ヲ信ヲシ先 認係ヲ 彌減シ先

依リ 多ヤ 密ニ以テ 和局ニ 至リテ 傾

外務省

シテ 守者、深慮スルナリ 若シ 媾和 條

約 果 然、 媾 和、 必 然、 口 談 判、 今 更 而 交

戦 國 間 互 接、 之 ヲ 行、 事 業、 事 業、 事 業

先 下 帝 子 政 府、 依 然、 守 信、 先 下 而 交

我 國、 之 上、 接 近、 右 談 判、 入 上、 ン、 ン、 ン、

ノ、 中、 之、 國、 及 証 的 韓 旋、 之、 要、 ス、 ン、 ン、

密 況、 方、 リ、 又、 今、 回、 所 戦、 之、 伴、 方、 向、 之、 變

遷、 之、 疑、 大 統 領、 互 接、 且 今、 方、 一 已、

世厚長久の儀、西交我國ツレテ互に橋渡し、

入ラシメテおのツ相互に橋渡しセルルニ至ラシテ

是迄亦政府ノ希望スナリ若シ大統領ニシテ

此任ニおルノ事ニ於テハ、亦亦政府ニ對テ

如何ニ事、事件ニ對シテ如何ナル他國ト協定

スル必要アリヤト云々云々之ヲ大統領ノ裁

裁ニ一任スルニ

高平公使ハ六月一日大統領ト會見シテ右列各ヲ執行

外務省

アリ次々六月三日<sup>後高平公使</sup>大統領ト會見スル大統領ハ九

ノ上ヨリ誘ヒ

(大統領ハ六月二日高平公使ト會見シテ曰く大使ニ云

フは上戦争ヲ繼續スルニ益ナク、平和

ノ得策ト云フ、強ク説諭スルニリ、大使ハ

高平公使ハ四月以前ニ於テ媾和ノ事ニ大統領

公使ノ意見ニ從ハシ、~~事~~矢策アリテ

シ決メシモ、若シ高平公使ニ達シテ媾和ヲ促

激るに於てハ新寫事書ニモ見エ先カ如ノ日本ノ要求  
 極ノテ苛酷ナルコトヲ見ル者ヲ述ベテハ之ヲ  
 大洗領ニ至ラテ見テ知ル者ノ誠意増  
 初ノ言ハシ次ニ日本全權委員ト何レカレテ今  
 合志し於テハ日本ノ要求カ所屬自ラ認メ居ルカ  
 如ク苛酷ノ事ハハルヲ見レシ大洗領ハ日本  
 兼 中東ノカ界ニ在リテ其ノ要求ヲ提スルコトヤ  
 知ラズト雖諸國ノ成規ヲ考メ居ル者ノ所屬  
 外務省  
 若干ノ領土ヲ割譲シ又若干ノ領土ヲ併合シ  
 フヘキコト覺悟スルカラスト所屬大使曰ク日本ハ  
 所屬所屬ノ領土ヲ領有スル者ト見レシ又割譲  
 ヲ爲ル者權利トシテ大洗領曰ク若シ所屬  
 此レテ不ノ理由ヲ以テ日本ノ要求ヲ拒ミハテ  
 所屬所屬ノ所屬ヲ以テ以上ノ邊境ニ至レシハ  
 所屬所屬ハ他ノ日本軍ノ遠征ヲ所屬所屬領土  
 ヲ以テ領有スルコトヲ見レシ又領土ニ併合シテハ

2-0090

0289



高帝ヲ説得セシメテバ 世界平和ニ  
貢献スル  
不極メテ大ニ平カクシテ

御意大使ハ六月廿日 大使領ト会見シ 六月廿日  
朝 高平公使ヲ訪ヒ 大長ヲ語セリ

(大使領ハ 駐高平公使大使ニ訓令<sup>付</sup>シ 高平公使  
ニ謁見シテ 平和ヲ勸告スル事ヲ命ジ 又御意

皇帝ハ 本件ト關シテ 大使領ノ 後援トシテ力  
ヲ尽ス<sup>レ</sup>)

外務省

六月廿日 大使領ハ 高平公使ヲ招キ 大長ヲ語  
セリ

(御意皇帝ハ 高平公使ノ 平和ヲ勸告スル事ノ書

ヲ高平公使ニ送リ 大使領ハ 六月廿日 朝

駐高平公使大使ト 高平公使ト 大使領ト 訓令トシテ

大長ヲ語<sup>直接ニ</sup> 高平公使ト 高平公使ト 即チ 目下ノ

戦争ハ 高平公使ノ 平和ヲ勸告スル事ノ書ヲ 高平公使

ニ送リ<sup>直</sup> 高平公使ハ 高平公使ト 高平公使ト 高平公使ト



至急  
返答

850069

大臣

次官

電信課長

主管

電受第五元  
號  
明治廿六年二月十日  
午前六時五分

小村外務大臣  
奉天見玉大将

第五號電報受取

外務省



2-0090

0293

850070

電送第... 號 明治... 年... 月... 日

五十年天

大臣

兒玉大将

イ云号

大統候... 六月七日夜高平公使ヲ招キ此者  
ヲ告セリ

外務省

媾和談判ヲ<sup>果成</sup>シテ<sup>ル</sup>ノ全權委員ヲ任

命スル者 回号... 就テハ日本<sup>モ</sup>亦

同一目的ノ為リ全權委員ヲ任命スルニ同

意スベキヤ

高平公使... 然リトモ... 是レ於テ大統  
候... 同

(... 大統候... 同... 政府...)

正式ノ手續ト爲ル公文ヲ... 照會スベシ

2-0090

0294



高平公使ノ問、~~高平~~大流領ハ又石島ヲ領スリ

(高平~~高平~~市ノ回号中ニ、~~高平~~市ニ日本

ガ封領ノ事ヲ認容スル能ハル條件ヲ

提議スル事ナリト云フ事様希望スル者ナリ

ト云フ事様~~高平~~ノ語アリ~~高平~~向々令桂

委員人會令ノ語ナリ、~~高平~~ノ何等記スル

ナリト云フ事様~~高平~~此ノ語ナリ~~高平~~協定スル事ナリ

高平流領ノ事ハ見公文ニ、~~高平~~市ノ事ナリ

外務省

高平市ノ事ナリ、~~高平~~市ノ事ナリ

石島~~高平~~秘密ノ附スル事ナリ

850072

沖三二号

林公使 外務大臣

電送第一号  
明治三十二年  
五月二十日  
東京

(六月十日奉天兒王大将和曾菲全友)

外務省

2-0090

0296

大臣

電信課長

次官

主管

電受第

五四

號

明治

三年

六月

十日

午後

十時

三十分

分

時

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

小村務大臣 奉天 兒玉大將

至急

第六号電報要領セリ

外務省

2-0090

0290

五奉天

兄玉大将

カ七十

本邦駐劄米子公使。米國商務委員及ノ電  
州。依リ 本月九日夜 死ノ者ノ公文ヲ 奉林 達リ  
車由 出リ

電送第五百號 昭和六年十月十日

外務省

自己利益ノ為メニモ 文明 世界 今年 利益  
ノ多ク 且 閣下 臣 孫ノ 婚和 侯 刺リ 刺 始  
マシテ 却望ス 石 婚和 侯 刺ノ 商 交 執 回  
尚 且 孫ノ 之ヲ 行ヒ 即チ 尚 且 令 控 委 五  
何 等 仲介 者リ 誤 スレテ 當 見 口 下 是 大  
使 領ノ 御 先 亦 有リ 大 使 領ノ 日 本 政 府 官  
以 際 石 會 合ノ 日 言 ヒ 之 ン 行 ヒ 又 亦  
且 政 府 之 等 行 ヒ 言 ヒ 亦 亦 日 大 使 領

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

外務省

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

ハ 昭和十一年四月十日付 外務省 駐米大使館 宛 電

850075

行。又後領ノ爲先ノ方ニ全無西交戦  
 國間ニ於テ互協ニ備和條件ヲ高誠  
 決定スルノ目的ヨリテ何如方領至ノ時  
 以臨而、於テ廣不台權委員ト會合  
 せしメテ、事不台權委員ヲ修名スルニ

外務省

2-0090

0300

大臣

電信課長

次官

主管

電受第五四九

號  
明治廿九年五月十一日

午前九時三十分

發

小村外務大臣

青島 兒玉大将

第七号電報受知ス

外務省

2-0090

030:

じ

壬午天

電送第九號 明治二十九年六月十二日

兎玉大将

沖入号

高平公使より六月十二日付電報に依り、唐子改  
 訂ハ大洗使事初先ニ集る事因政府ノ公文ニ  
 到シ其初先ニ答ル事申奉ルシ全権委員リ  
 任命スル事有リ回至リ然ルニ其全権委員ノ權  
 限ニ一併シテハ唐子回至リ、言義明確ナラザレ  
 ニ依リ、唐子改訂ハ之ヲ確見ノ手段ヲ採リ、  
 其後結果 駐米唐子大使ハ大洗使事言明タル  
 唐子ノ談判委員ハ、完全ナル權限ヲ委任セラル 全権  
 委員 佐々木 常雄 へ付テ、唐子 大洗使事ハ、唐子  
日本委員ト同様 媾和條件ヲ高議決定スル全權ヲ有スル事有リ  
 佐々木 常雄 信託者ト高平公使ト述ハスニ依リ  
 唐子改訂ハ大洗使事言明ニ信託シ、唐子 全権



情初條件ハ高議決定スルノ旨極力  
 帯ニ委スル任命スルノ決ニ見テ大任  
 ニ委スル又今會合地ニ集ルハ<sup>初</sup>帝ニ政付  
 御ニ於テハサキ界 露不<sup>レ</sup>於テ<sup>レ</sup>日星ヲ提議  
 シカ帝ニ政付ハク斗極折合ノ纏マラセリ見  
 テ更ニ再整頓ヲ提議アリ 是レ於テ大任候  
 ハ海牙ヲ擇フノ意見ヲ提上セシカ 結局露不  
 ハ強ニ躊躇ス後遂ニ再整頓ニ同意ス  
 先キテ會合地ノ問題ハ茲ニ解決スリ 西國全  
 權委互 會合ノ期日ニ定ムル帝ニ政付ハ  
 八月上旬ヨリ如クニ<sup>レ</sup>會合ヲ開始スルヲ提  
 議スルニ奉ル露不ノ回答ニ極力目下又  
 回答ヲ促シ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>又 露不<sup>レ</sup>全權委互<sup>ノ</sup>ハ  
 兼テ地位高クテ 露不<sup>レ</sup>帝ノ位任ヲ受スル  
 時 任命スルハ<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>駐米<sup>ノ</sup>露不<sup>レ</sup>大使<sup>ト</sup> 大任候  
 知<sup>レ</sup>見<sup>ル</sup>也 何人<sup>カ</sup> 任命スルハ<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>未<sup>ダ</sup>知<sup>ラ</sup>ズ



850078

帝及政存ハ外務大臣及高平公任ラ全權

委員ニ任命スルニ内定アリ

右閣下限リノ内令マテ内事ニ報ス

外務省

2-0090

0304